

PART8

資料編



TAMAらいふ21 協会の提案

「TAMAらいふ21」の継承（10周年記念誌より）

多摩新時代の創造をめざし、「社会実験」「イベント」「運動」をキーワードに365万人のまちづくり運動に取り組み、平成4年から5年にかけて立川市にある国営昭和記念公園を中心会場として開催された、21世紀の多摩を先導するまちづくり運動「多摩東京移管百周年記念事業—TAMAらいふ21」は、多くの成果をあげ、数々の提案を行った。これらの成果を次世代に継承し、提案を実現に結びつけるためにさまざまな主体が果たすべき役割と、21世紀を切り開いていくための市民と行政の新たなパートナーシップの形成について提案がなされた。

①（仮称）「TAMAらいふ21 情報交流センター」の設置 （市民ネットワーク等の継承の提起）

（1）「多摩新時代」シンポジウムにおける提案

クロージングプログラムの「多摩新時代」シンポジウムでは、ポスト「TAMAらいふ21」を見据え、市民等のネットワークの重要性とその支援の必要性、とりわけ「交流センター」の整備の必要性が指摘された。パネリストの一人からは、「今後のことについて、市町村の組織に住民パワーを交えたような、例えば、交流センターのようなものを展望した、何か新しいソフトのための整備をお願いしたい」との発言もあった。（注：ここで「交流センター」と漠然といわれているものは、次第に次ページの（仮称）「TAMAらいふ21 情報交流センター」に具体化していった。）本シンポジウムの基本提言や、他のTAMAらいふ21協会主催事業から発せられた「提言」等には、「TAMAらいふ21」の成果を継承するための交流機能や情報機能の必要性について、いくつも盛り込まれていた。

（2）都議会における検討

「TAMAらいふ21」の事業展開を注視していた都議会においても事業が終盤に近づくにつれ、事業を通じて形成された自主的な市民ネットワークや情報センター創設についての関心が高まり、平成5年9月の第3回定例会では、各種の研究会等の活動を通じて収集・作成されたデータや資料を、市民が気軽に利用できる場の確保の必要性が提起され、都総務局長が都と市町村による検討を約束している。

（3）市民ネットワークによる先導

「TAMAらいふ21」の期間中に、そのテーマに沿った事業を契機として市民のネットワークがいくつかできていた。テーマプログラム「365万人リサイクル型都市の形成」では、「多

摩りサイクルとことん討論会」を通じて結成された学生のネットワーク組織「ANSWER in たま」が、同じく「都市農業の新しい展開」では、シンポジウム参加者有志などが中心になって結成された「TAMA 農のあるまちネットワーク研究会」などがあった。

さらに、事業期間終了間際からは、テーマプログラム「365万人リサイクル型都市の形成」にかかわった市民で結成された「東京・多摩リサイクル市民連邦」、同じく「多摩川の復権」にかかわった市民等で結成された「多摩川センター」、同じく「湧水・崖線の保全」を支えた「湧水崖線研究会」を発展させた「みずとみどり研究会」、総括プログラムの「西多摩地域振興プロジェクト」を支えた「林間ゾーン研究会」を発展させた「西多摩研究会」などが次々と結成された。テーマプログラム「国際芸術・文化ゾーン多摩の創造」でも、「多摩コミュニティーオーケストラフェスティバル」で演奏を行った市民オーケストラ「TAMA らいふ 21 管弦楽団」が、「TAMA 21 交響楽団」として発足することとなった。

(4) 「多摩新時代宣言」セレモニーにおける評価

このような動きについて、平成5年11月、クロージングプログラムにおける「多摩新時代宣言」セレモニーで、鈴木俊一「TAMA らいふ 21 協会」会長は、次のように述べている。「『TAMA らいふ 21』を契機として、市民や研究者、企業や行政が相互に連携したネットワークが随所に誕生し、活発で特色ある活動が繰り広げられ、交流の輪が大きく広がっています。『TAMA らいふ 21』は、立場や経験を異にする人々が、共通の課題について真摯に議論し、相互の理解を深め、解決策を探ることの重要性を、私たちの心に強く印象づけました。こうした経験は、今後のまちづくりを進める上で、貴重な力となることでありましょう」

② (仮称)「TAMA らいふ 21 情報交流センター」の発足

TAMA らいふ 21 協会では、事業終了後間もない平成5年12月、理事会において「TAMA らいふ 21」の活動を通して形成された市民のネットワーク活動の継続を支援するため、都、多摩 32 市町村（当時）及び同協会が早急にその支援実施組織の検討・協議を行うこと、並びに支援のための財源を同協会が措置することを決めた。

支援の概要は、「市民のネットワークの活動と交流の場の確保」「『TAMA らいふ 21』の活動の記録や関連資料の公開」「その他必要な事項」であった。

こうして、ポスト「TAMA らいふ 21」の検討が本格的にスタートし、その結果、(仮称)「TAMA らいふ 21 情報交流センター」を(財)東京市町村自治調査会内に設置し、事務所を当面、「TAMA らいふ 21 市民談話室」(談話室)のあった府中市に置くことで、関係者の了承を得た。

上記の過程を経て、平成6年7月、事業費に充当するため、TAMA らいふ 21 協会から引き継いだ資金を活用して多摩交流基金が設置され、(財)東京市町村自治調査会の一組織として「多摩交流センター」が開設されるに至った。

3 期待される機能について

検討段階では、次の機能が期待されていた。

■市民のネットワークの活動と交流

(仮称)「TAMA らいふ 21 情報交流センター」は市民のネットワークの活動と交流の場である。これは、「TAMA らいふ 21」を通じて結成された市民のネットワークのほか、東京多摩公立文化施設協議会、「TAMA ART STUDIO –連絡協議会」など、「TAMA らいふ 21」の事業継承を行う組織の活動と交流、成果の発表の場である。また、(仮称)「TAMA らいふ 21 情報交流センター」を利用して、日常的なシンポジウムの開催や日頃の研究・活動の発表会開催などを行うことでもある。

■情報の公開と収集・提供

「TAMA らいふ 21」の記録や関連資料等の公開のほか、多摩に関する情報の収集・提供を行う場でもある。

ア 「TAMA らいふ 21」の記録や関連資料等の公開

「TAMA らいふ 21」を通じて、多くのテーマについての議論の記録、写真集、研究会報告書、各種の地図、ビデオテープ、CD等、多様な成果物が生み出された。これらの一部は、各市町村の地域図書館などを通じて公開されることとなっているが、成果を広く確実に継承していくためにも、すべてを1か所に集めて常時閲覧・貸し出しなどのかたちで公開することである。

イ 多摩に関する情報の収集・提供

東京都、多摩 30 市町村、(財) 東京市町村自治調査会、その他行政機関等の発行する広報紙・計画書・書籍や多摩のタウン誌(紙)、その他の多摩に関する書籍等を収集し、公開する場とする必要があり、多摩に関する総合的な情報センターとして、広く一般市民に開放していくことである。

ウ 広域的な情報誌(紙)の発行

多摩の情報発信基地として、(仮称)「TAMA らいふ 21 情報交流センター」の活動や市民ネットワークの活動の成果等を紹介するとともに、多摩の広域的情報を一般市民に提供する情報誌(紙)の発行である。

■「TAMA らいふ 21」を継承する事業の実施

「TAMA らいふ 21」を永く東京都や多摩 30 市町村、そして人々の記憶に留めるとともに、「TAMA らいふ 21」の成果をのちのち検証するためにも、毎年「TAMA らいふ 21」を記念する事業を定期的に行うことである。

ア 記念事業の開催

毎年、「TAMA らいふ 21 記念シンポジウム」等を開催し、その成果とその後の状況を確認すること。また、市民のネットワークの研究活動発表会の開催等である。

イ 自主企画プログラムの支援

情熱と意欲にあふれる多才な多摩の市民の自主的な活動を支援する「自主企画プログラム」を、記念事業の開催の時期に合わせて継続していくことが望まれる。

4 (仮称)「TAMA らいふ 21 情報交流センター」の将来構想

(仮称)「TAMA らいふ 21 情報交流センター」の将来構想としては、次の3点が掲げられていた。

■多摩地域の情報交流の拠点

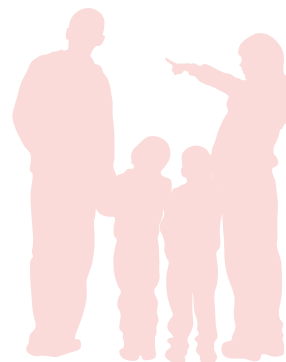
将来的には、多摩全域を網羅する情報受発信の拠点としても整備されることが期待された。その際、機関紙の編集、「TAMA らいふ 21 FM放送局」の運営や「多摩市民会議」の企画・運営などで培ったノウハウを生かして、市民参加型の運営とすることが望まれた。

■多摩の市民・大学・企業・行政の交流の拠点

自立都市圏の形成には、多摩で活躍するすべての分野の人々、市民、大学、企業、行政が交流し、また、異業種間の交流等、多摩の人智を交流させる総合的な拠点を整備する必要がある。情報交流センターがそうした拠点として発展していくことが期待された。

■多摩都民フォーラムへの期待

(仮称)「TAMA らいふ 21 情報交流センター」は、「TAMA らいふ 21 市民談話室」のあったゆかりの場所に設置され、将来は、多摩の交流とネットワークの促進等を目的に掲げていた「多摩都民フォーラム」の計画と整合を図り、その中心的機能の一つと位置づけることも考えられていた。



タイムカプセルについて

①経緯

平成5年11月17日「TAMA らいふ 21」は「多摩新時代宣言」セレモニーをもって閉幕した。

このセレモニーでは、「TAMA らいふ 21」のすべての取組みが報告されるとともに、新たな100年に向けての「多摩新時代宣言」が発せられ、宣言には東京都知事と32市町村長が署名しタイムカプセルに収納された。TAMA らいふ 21 事業に携わった人やその経緯を知る人たちが少なくなっているため、TAMA らいふ 21 事業やタイムカプセルの経緯について本記念誌において記録する。

②タイムカプセル収納品

- ・多摩新時代宣言
- ・TAMA らいふ 21 白書
- ・事業の取組み記録等

③現状

現在、タイムカプセルは、府中市の「東京自治会館」1階ロビーに存置してある。当初タイムカプセルは、東京都が建設を計画していた「多摩都民フォーラム」の敷地内に埋設される予定であった。その後、平成6年、都の財政事情から多摩都民フォーラムの建設計画が白紙とされたことから、タイムカプセルは東京自治会館内に存置されている。

平成13年には、「多摩くらしの祭典」の会場となった国営昭和記念公園や都立公園への埋設を検討したが設置許可が得られなかった。東京自治会館での存置はタイムカプセルの存在を都民の目に触れさせる機会が少ないが、少なくとも東京自治会館に来館する市町村関係者あるいは都関係者にとっては TAMA らいふ 21 事業の記念碑的な存在となり得るとし存置を継続している。

④課題

平成5年の「多摩新時代宣言」は、新たな100年に向けての宣言であった。その後、21年が経過しているが、事業成果を確認し宣言を検証する時期を検討する必要がある。なお、タイムカプセルは TAMA らいふ 21 事業の記念碑的な存在でもあり、単に、タイムカプセルを開け収納品を取り出すのではなく、今後の多摩地域を先導するイベントなどにおいて有効に活用する検討が必要と考える。



編集後記

平成5年の多摩東京移管百周年記念事業「TAMAらいふ21」開催から21年、その成果の継承と発展を目的として平成6年に「多摩交流センター」が開設してから20年が経過しました。多摩地域における市民の交流活動や広域的ネットワーク活動の推進を図るため当センターが行ってきたさまざまな支援が、多摩地域の市民活動や生涯学習の充実に多少なりともお役に立つことができたのではないかと、本記念誌制作を通じて感じています。

本記念誌は、当センターのあゆみをまとめるとともに、市民活動等の方向性にもふれており、市民活動や生涯学習に携わる方々、関心のある皆様の一助となれば幸いに存じます。

最後になりますが、御多用中、記念誌作成に当たり、稿を寄せて下さった方々、市民活動の貴重なお話を聞かせて下さった方々、資料や写真などを提供して下さい下さった方々、その他記念誌作成に関わった方々にこの場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

当センターは、今後とも多摩地域の広域的な市民ネットワーク活動の支援を行っていきますので、引き続きご助力を賜りますようお願い申し上げます、あとがきとします。

平成27年3月

(公財) 東京市町村自治調査会
常務理事 石井 恒利



多摩交流センター 20年のあゆみ

市民ネットワーク活動のこれまでとこれから

平成 27 年 3 月 15 日 発行

■発行

公益財団法人東京市町村自治調査会

【(公財) 東京市町村自治調査会】

〒 183-0052
東京都府中市新町 2-77-1 東京自治会館 4F
TEL042-382-7781 (事業部)
FAX042-384-6057
<http://www.tama-100.or.jp>

【多摩交流センター】

〒 183-0056 府中市寿町 1-5-1 府中駅北第 2 庁舎 6F
TEL042-335-0100
FAX042-335-0127
<http://www.tama-100.or.jp/>
e-mail:tama001@tama-100.or.jp

■企画・制作・編集

東京 TAMA タウン誌会

〈事務局〉

〒 206-0033 多摩市落合 2-38-103
(有)多摩ネットワークセンター内
TEL042-337-1888
FAX042-337-1885

■アンケート集計・分析協力

多摩大学総合研究所

教授 松本祐一
〒 206-0022 多摩市聖ヶ丘 4-1-1
TEL042-337-7299

東京 TAMA タウン誌会 構成団体

【西多摩新聞】

(株)西多摩新聞社
柴崎 斉
〒 197-0022 福生市本町 33
TEL042-552-3737 (代)
<http://www.nishitama-shinbun.co.jp>
e-mail:info@nishitama-shinbun.co.jp

【週刊もしもししんぶん】

(有)多摩ネットワークセンター
長谷川豊子／恒住智美／長谷川典子／堀内志津世／
五来龍人／染谷あゆ子／西田美穂子
〒 206-0033 多摩市落合 2-38-103
TEL042-337-1888 (代)
<http://mosimosi.biz>
e-mail:info@e-mosimosi.com

【ほのぼのマイタウン】

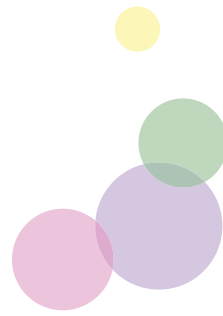
ほのぼの情報ネット
松永和子
〒 187-0001 小平市大沼町 5-18-17
TEL042-308-8888
<http://honobono-mytown.com/>
e-mail:honobono-mytown@jcom.home.ne.jp

【週刊きちじょうじ】

(株)吉祥寺情報センター
大橋一範
〒 180-0003 武蔵野市吉祥寺南町 1-4-1 井の頭ビル 7F
TEL0422-48-7741
<http://tokyo-net.ne.jp/>
e-mail:kichijoji@tokyo-net.ne.jp

【ふちゅうファミリープラザ】

ふちゅうファミリープラザ
大沢 稔／大沢美保子
〒 183-0046 府中市西原町 3-23-3
TEL042-572-4044
<http://shop.aokai.or.jp/units/36251/family-p/>
e-mail:osawa-fp@jcom.home.ne.jp



市民ネットワーク活動の新たな展開のために

(公財) 東京市町村自治調査会 多摩交流センター

